

## 2010年度 研究室便り

卒業生・修了生の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度も西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

2009年度の教員スタッフは、神寶秀夫教授（ドイツ中・近世史）、山内昭人教授（インタナショナル史）、岡崎敦准教授（フランス中世史）の三名の専任教員に加えて、昨年度より非常勤講師として、佐賀大学より都築彰先生（イングランド中世史）、熊本大学より三瓶弘喜先生（アメリカ史）にご出講をお願いいたしました。集中講義は、10年2月に、福岡大学の松塚俊三先生（イギリス近代史）による授業が行われました。

学生は、学部・大学院をあわせて25名が、日夜勉学に励んでおります。09年度の進学生（新2年生）は、6名すべてが男子学生という前代未聞の布陣です。09年3月をもって、六本松キャンパスが閉鎖され、全学教育が伊都キャンパスへと移転したことから、この学年は、はじめて伊都キャンパスで2年前期を過ごすことになりました。10年度からはいよいよ、六本松を知らない学生が進学することになります。

大学院では、修士課程に、今年度あらたに、酒井沙織さん（イングランド中世史）が入学しました。修士2年の福永衣里さん（フランス現代史）は、ジェンダー史の研究を続け、10年1月に修士論文を提出しました。博士後期課程では、2年の大浜聖香子さん（フランス中世史）が、夏の史料論研究会報告、秋の中世学会若手交流セミナーでのポスター報告（於京都女子大学）、広島史学研究会大会での学会報告など、精力的に活動を続けています。同じく、博士後期課程3年目の法花津晃君（フランス中世史）は、論文執筆のかたわら、同じく京都での中世学会若手交流セミナーでのポスター報告に加え、冬の九州史学会大会でも報告いたしました。最後に、ブルガリアに留学していた博士後期課程3年の岡部直樹君（バルカン現代史）が、この春に帰国しました。冬の九州史学会大会での報告ほか、論文の完成を目指して研究に邁進しています。

研究室の年中行事としては、本年度も、年度初めの「進学（専門分野決定）式」、「進学生歓迎コンパ」、5月、11月、1月の「卒論構想発表会」、夏休みの「オープン・キャンパス」、「合宿旅行」、9月末の「進学ガイダンス」、年度末の「追い出しコンパ」等と続きます。学生・院生による自主的な研究室運営という伝統は、さまざまな困難にも関わらず守られておりますので、ご安心下さい。

本研究室主体の学会・研究会関係では、3月と10月に九州西洋史学会、12月に九州史学会（西洋史部会）が例年通り開催されました。科学研究費の助成を受けている「西欧中世史料論研究会」では、今年度は2回の研究会を研究室で開催いたしました。その他、ラテン語読書会「タキトゥスの会」を始めとして、多様な催しに会場と人材を提供しております。

最後に、本年度、西洋史学研究室では、森本芳樹先生よりご蔵書の一部の贈呈を受けました。西洋中世史、経済史を初めとして、歴史理論や美術史までを網羅する多くの重要な書物を、本研究室の貴重な財産として継承させていただきます。

このように本研究室は、九州における西洋史学研究ならびに国際的学术交流の拠点として、周辺の大学や研究教育機関と連携しつつ、研究教育・社会活動を変わず推進しています。

末筆ながら、皆様のご健勝、ならびにより一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(文責 岡崎敦)